

医師不足地域を支える医師



J A 静岡厚生連
清水厚生病院
副院長 循環器内科
森脇 秀明 医師

—— 医師をこころざしたきっかけを教えてください。

森脇医師

原点は父親にあると思います。私は島根県と広島県の県境にある中国山地のどまんなか(ど田舎)、島根県邑智郡瑞穂町(現邑南町)に生まれました。父はそこで開業医(産婦人科)をしていました。町には他に内科医院だけなので、お産以外にもちょっとした外傷を診たり、また往診にもよく行っていました。車の免許を持っていなかったのでバイク(ホンダスーパーカブ)に乗って行く姿を覚えています。今と違い当番制もないので24時間、365日開院みたいな生活で朝学校に行くときはまだ寝ているし、帰ってきててもまだ働いていて、父の顔を見るのは日曜日の夕食の時くらいだった気がします。

私が中学3年生の9月、父は体調を崩して入院し、あっという間の12月に亡くなりました。享年49歳、膵臓がんでした。葬儀は町の体育館で行われましたが、会場に入りきれない程の沢山の方々が最後のお別れに来てくださいました。その後も様々なところで、沢山の方から“本当にいい先生でした、お世話になりました”と声を掛けていただき、仕事ばかりで家庭人としては、まったくの失格者と思っていた父が、こんなにも沢山の方々と関係し、影響を与えそして好かれていたことにびっくりしました。田舎でのんびりとしていましたが、ようやくスイッチが入り、医者って素晴らしい、医者になりたいと思いました。



—— 医師不足地域での勤務について（地域医療に対するお考え、やりがい等）教えてください。

森脇医師 清水区最大の総合病院は静岡市立清水病院ですが、循環器内科医不在の期間もありました。2021年4月からは2名の医師が勤務されていますが、決して十分ではありません。清水厚生病院の循環器内科医は私ひとりです。よって沢山の心血管系救急患者が、葵区そして駿河区の総合病院に搬送されています。そこで心不全の急性増悪を防ぐ目的で診療所の先生方や訪問看護ステーションと協力し清水心不全治療連携の会を作り、2019年5月からは自己管理用の心不全手帳の運用を開始しています（清水医師会発行）。

病院勤務の医師は少ないですが、地域の診療所の先生、訪問看護師やデイサービス等介護福祉関係者を含めた多職種で連携して皆で心不全の悪化を防ごうと取り組んでいます。

—— 趣味・好きな言葉（座右の銘など）を教えてください。

森脇医師 趣味はいろいろありますが、一番好きなものはスポーツだと思います。大学生の時は準硬式野球部と山岳部に入っていました。50歳の時、本格的にゴルフを始め、完全にはまりました。妻や子供からは“ビョウキ”と冷やかされています。

2021年4月マスターズゴルフでの松山英樹選手の優勝、本当に感動しました。プレッシャーと戦っている人の顔ってチョーカッコいいですね。最終日の18番ティーショットは何度観ても泣けてきます。

好きな言葉として特に座右の銘的なものはありませんが、感謝、謙虚、そして挑戦を大切にしています。学生時代、研修医時代、そして医師として研鑽をしていくなかで出会った方々からこの言葉の持つ意味、そして力を学びました。人として成長させてくれる言葉だと思っています。振り返ってみて人生最大の挑戦はアメリカ留学でしょうか。楽しい、けどちょっとしんどい or しんどい、けどちょっと楽しい、そんな経験でしたが行ってよかったと思っています。

—— 医師を目指す学生へメッセージをお願いします。

森脇医師 父親を内蔵疾患で亡くしたため、消化器系の医者になるべきなのか、あるいは同じ産婦人科医になるかと迷っていましたが、結局は循環器内科を選択しました。好き・嫌い、得意・不得意はありますので専門は自分に正直に決めたいと思います。そして自分の進む道を決めたら、とにかく精進して欲しいです。医者は最低でも標準的医療を患者さんに提供する義務があると思います。標準は時間とともに常に前進していますので、医者も絶えず勉強を続けなければいけません。人に与えれば与えるだけ自分も幸せになれる素晴らしい仕事です、頑張ってください。



プロフィール

森脇 秀明 医師

趣味

・スポーツ

1988年 島根医科大学(現島根大学)医学部卒業
1988年 京都大学医学部付属病院 老年内科
1989年 静岡県 島田市民病院 内科
1991年 滋賀県立成人病センター 循環器内科
1994年 京都大学医学部大学院 博士課程
2000年 米国 UCSF校グラッドストーン心血管研究所
2001年 米国 ワシントン州立大学医学部循環器内科
2004年 静岡県立総合病院 循環器内科
2017年 静岡県立総合病院 心臓リハビリテーション科
2017年 JA静岡厚生連 清水厚生病院 内科